



安曇野市

第19号

農業委員会だより

写真の記事

明科七貴・上押野区における天王原地域農地再生事業の様子。荒廃していた土地（写真左上）にブドウの苗が定植された。写真右は今年5月の様子。



● 主な内容 ●

- 荒廃農地への取り組み……………2～3
- がんばる農業者……………4～5
- 功労者表彰受賞者の紹介……………6
- 農地台帳の公表について……………7
- おふくろの味・旬の一句……………8

農政の動き

会長 板花 守夫

農業委員会組織制度改革については、今回60年ぶりの大改正での名のもとに、現場実態とは別に効率性を優先させた改正法が審議されようとしております。改正の主旨は、農地利用の最適化を担い手への集積集約化すること、耕作放棄地の発生防止と解消新規参入の促進を進めるといったことです。具体的には以下の通りです。第一、農業委員の選出方法を公選制から市町村長の選任制に変更する。第二、農地利用最適化推進委員を新設する。第三、農業委員会をサポートするため都道府県段階及び全国段階に農業委員会ネットワーク機構を指定する。特に今回の法律改正では、農業委員の任命にあたっては認定農業者である個人や、女性青年など意欲ある人材、また学識経験者等を登用する配慮が必要とされました。また、農地利用最適化推進委員については農業委員会のもと、各担当地域において農地等の利用確保、そして農地の集積集約化の活動を行う業務が位置付いております。

今回の改正には、農地行政が農業農村の維持発展や農業振興に資するよう充分配慮した法律改正を望むところです。

発行日／平成27年7月8日
 編集と発行／安曇野市農業委員会
 安曇野市豊科6000番地
 TEL 0263(71)2497

農業委員会事務局ホームページアドレス
<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>
 申請書、届書のダウンロードができます。

田沢開田地域未耕作地の解消と 東山麓の景観確保の取り組み

山崎 委員

平成26年1月の田沢開田地域は、24年10月から同年12月にかけて行われた「鹿等侵入電気柵の設置」から一年が経過し、鹿による被害が大幅に減少し、安心して耕作出来る環境が整った時期である。

26年2月、濱農場からの「そば作付圃場の提供依頼」を機に田沢開田地域活性化を図ることとした。

1 田沢開田地域未耕作地の解消

田沢開田地域の田及び畑の耕作面積は約12・5haであり、26年2月の時点での未耕作面積は約5・8haである。

26年3月、田沢開田耕作組合総会において、



▶手入れ前



◀手入れ後

「濱農場から圃場管理が難しくなった方を主体として提供を希望する方と濱農場との土地使用貸借の契約を進めたい」旨の説明を行い、了承を得た。

26年4月、利便性の良い地域2ヶ所(約2ha)を選定し、所有者15名に対し使用貸借条件(土地は無償貸与、畦畔を含む耕地管理は通年濱農場等)を提示し希望者を募った。その結果7月までに13名の所有者と田158a、畑28aの計186aの土地使用貸借契約が締結され、田は8月にそばの播種、畑は荒廃した梅畑の剪定・整地が行われた。

そば収穫後の26年11月、同年8月以降「土地使用貸借希望」の申し出があった所有者との手続きを開始し、その結果27年4月末現在における濱農場との土地使用貸借契約面積は、開田地域の田540a、畑28a、地域外の田28aの計596aとなっている。

また、濱農場の耕作加入によって未耕作地の解消は、開田地域において田348a、畑28aの計376aとなっている。更に開田地域外の28aを含めると404aが未耕作地解消となっている。

2 東山麓の景観確保の取り組み

24年に行われた「鹿等侵入防止電気柵工事」

により、山麓の荒廃地は多少改善されたが、電気柵の圃場側山裾の荒廃管理には限界があり、アレチウリの繁茂対策も十分にできない状況にあった。

濱農場との耕作条件に畦畔を含む圃場の通年管理」となっていることから、濱農場と折衝を重ね、その結果、圃場と接する山麓の裾刈り及び電気柵と圃場間の農道についても、同様の管理を行うこととなった。これにより、圃場と接する山麓の雑木処理、アレチウリの駆除が予定され、一部農道の雑草処理も含め良好な管理が図られることになった。

3 今後に向けて

当面は濱農場を中山間地の中心的耕作者として位置付け、中山間地の運営に参加して頂きながら協力体制を育みたい。

未耕作地2haについては、開田地域の活性化に向けて地権者の考え方、意向を踏まえ対処して進めることとする。

濱農場とは、現在予定しているそばの作付だけでなく、対象作物の検討等、将来にわたって営農ができるよう地域としても関わって行きたい。



▲荒れていた土地を手入れした

明科地域荒廃農地再生事業への取り組み

天王原プロジェクトの二年目 明科地域農業委員会

1 取組の概要

平成25年度の天王原荒廃農地再生事業は、初年度ということもあり、「守る会」が主体となつてモデル事業としてスタートしました。この間の経過は第17号の「農業委員会だより」で報告させていただきました。試行錯誤を繰り返して、手探り状態とは言え一定の成果を達成することができました。平成26年度事業はこの成果を引き継ぎ、課題を整理して問題点を克服すべく取り組みを開始しました。

26年度の対象面積は約260aでした。前年同様、荒廃の程度がかなり進んでいて、地権者の方も多いため、規模としては前年度よりも極めて大きなものとなりました。耕作者を加え、「守る会」の体制をより充実させ、準備期間から再生作業の各段階において綿密な計画のもと、作業の進捗状況に合わせてながら、その都度修正を加えつつ実施していくことにしました。

2 再生作業の実施

11月下旬にスタートし、今年の1月中旬までは前半の機械主体の作業はほぼ終わりました。この間は機械オペレーターの配置、機械のレンタル、危険を伴う専門作業の委託を



▲平成 26 年 11 月 起工式の様子

有効に組み合わせ、順調に進めることができました。

再生作業の後半は機械作業で処理しきれない細かな木の枝、地中に埋まったツル、木株の処理が中心となります。広い範囲を人の目で見、人の手でやらざるを得ない海戦術を必要とする作業です。相当数の人手を必要とする作業であるため、安曇野市農業委員会の八役会を通じ、明科地域以外の委員の皆さんにもボランティア作業への参加を依頼し、協力していただくことができました。地権者、市職員の方々にも加わっていただき、延べ

3 今後の課題と展望

150名もの多くの人たちの参加を得ることができ、無事作業を完了させることができました。まさに人の力の大きさ、協力して仕事をするこの大切さを実感することができた作業でした。

再生作業終了後はワイン用ブドウの植え付け作業、棚の設置も進み、いよいよ本格的な耕作の段階に入りました。天王原全体の中で、再生作業が進んでいるのはごく一部に過ぎず、まだ端緒にいたばかりです。今後さらには地元の人々の理解を得て、次のステップを目指していきたいと思えます。



▲平成 27 年 2 月 整地作業の様子

がんばる農業者



就農して30年、よくこま
で続けてこられたと思いま
す。私の家では、父が52年前
からカーネーション栽培を手
掛けてきました。安曇野市で
は、いち早くから作り始め、
技術が確立していない時から
失敗を繰り返して今の技術を
得たそうです。

就農した当時は26a
(800坪)であったが、毎
年ハウスを一株づつ建ててき
ました。現在、ハウス29棟(ガ
ラス温室2棟、アクリル温室
6棟、ビニールハウス21棟)
面積100a(3000坪)
を経営しています。就農時か
ら3・7倍の規模拡大。赤、
ピンク、ローズ、白、オレン
ジ、イエロー、グリーン、ラ



▲受賞したカーネーション

イラック、ベージュ、紫、複色など15色38品
種のカーネーション栽培をしています。長野
県内では1、2を争う栽培面積です。

長野県の作型は、6月中旬から12月上旬ま
での出荷が普通ですが、家は5月上旬から翌
年の1月末まで行います。面積があるので、
色々な作型を取り入れ、今では法人化を行い、
中国などから実習生を受け入れて経営を行っ
ています。1年以上たつと私たちより手さば
きが早くなり、非常に助かっています。

うちだ
内田 一三さん (51)
(豊科高家地区)

経営面積等

水稲……………140a
カーネーション……100a
(ハウス 29棟)



輸入切花が市場の5割以上占めているな
か、我々が頑張らなくてはいけません。南信
ハウスカーネーション組合(飯田市から大町
市まで組合員60名)では、毎年品質向上のた
め品評会を行っています。一昨年度最優秀賞
を受賞出来ました。これも家族従業員のおか
げです。「ありがとう」

消費者の方々に、より安全良質な農産物を
提供できるよう努めていきたいと思えます。

がんばる農業者



いけがみ ふみやす
池上 文康さん (56)
(明科中川手地区)

経営面積等
ぶどう (ワイン用)
……3.4ha

私の実家は代々農家で養蚕や水稲、果樹、花卉栽培をしていました。私自身は高校卒業後、大学生時代から数える38年間で、県外で暮らし、サラリーマン生活を送ってきました。ここ数年、両親が高齢のため農業を続けられなくなったことがきっかけとなり、Uターンを考えて、何か新しい農業を实践してみたいと思いました。

そんな折2年ほど前に長野県の「信州ワインバレー構想」に触れて、安曇野の地にワイン用ぶどうを栽培し、安曇野の風土を表現できるようなワインを作ることを農業の目標としました。直前の会社が食品スーパーで、そこでワインの試飲などをしていっているうちに地域ごとのワインの違いに感動し好きになったことも、ワインぶどう栽培を選んだ理由です。

とはいえ、新規就農者で、毎日の農作業が試行錯誤の連続で七転八倒しております。今後とも諸先輩の皆様の指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

現在は、安曇野市明科七貴の天王原地区の再生された農地約3・4ヘクタールを活用してワイン用ぶどうを栽培し始めました。平成27年3月から4月にかけて、赤ワイン用品種メルロー約2500本、白ワイン用品種シャルドネ約2500本を定植しました。収穫量が増えてくるのは今から3、4年後ですのでしばらくは辛抱の時期ですが、将来、天王原地区独自のワインとして販売できるようにしたいと思っています。安曇野地域は、長野県の提唱する「日本アルプスワインバレー」に位置しており、隣町の池田町では品質の高いワイン用ぶどうが生産できることが最近評価



されてきました。天王原も地続きですので、栽培適地と信じて栽培に励んでいきたいです。天王原地区の荒廃農地再生事業では、明科地域の農業を守る会の皆様や安曇野市各地域の農業委員の皆様、ボランティア参加があつてはじめて農地として再生することができました。ご協力いただいた皆様に改めて感謝いたします。大変ありがとうございました。荒廃農地再生から出発していることを忘れず、しっかりと栽培に専念していきたいと思えます。

いつの日か、天王原で地元ワインを飲みながらワインパーティーが出来るように頑張ります。

平成26年度松塩筑安曇農業委員会協議会
地域農業振興等功労者表彰

平成27年2月18日に、松本合同庁舎において平成26年度地域農業振興等功労者表彰式が開催され、堀金烏川の「青柳力」と、明科南陸郷の「安曇野中村ファーム」が表彰されました。
ますますのご活躍とご繁栄をお祈り申し上げます。

○安曇野市堀金烏川

青柳力 あおやぎ つとむ

水稻栽培が主であるが、その他にそば、麦等を耕作している。農業従事者の高齢化に伴い、耕作できない状況になってきた農地も積極的に受け入れ、遊休荒廃農地の発生防止に貢献している。

受賞のきっかけ

この度 農業委員会より表彰状をいただきまして有難うございました。今、

自分のやってきた農業経営をふりかえってみて、特に良い成績をあげたわけでなし、また



特異な経営をしたものでもありません。自作の田畑に、おあずかりした田圃合わせて十五町歩…畦草刈に追われ、また石拾い等地味な仕事に手間をかけてきた毎日。条件の悪い田圃を少しでも良い田圃に、仕事をし易い田圃にと思っただけでやってきました。これに対しての今回の表彰状かな？と自分なりに思っております。有難うございました。

○安曇野市明科南陸郷

(農)安曇野中村ファーム

平成23年10月に設立。
農業従事者の高齢化、後継者不足により農業生産活動の継続に苦しむ農家が増加している現状を受け、皆で協力する共同経営により効率的な農業経営の実現を図る。



受賞のきっかけ

平成26年度松塩筑安曇農業委員会協議会の表彰をして頂き厚く御礼申し上げます。平成17年に第2期中山間事業の代表を引き受けて10年過ぎました。その2期に入った頃から、中村・神谷中山間事業の協定者の中で、高齢化や病気などにより土地を管理することができなくなった人が出てきました。そして中山間で管理を任された田が数十枚になってきました。そこで、年々受託水田が増してきた平成23年10月に集落営農組織として、農事組合法人中村ファームを立ち上げました。耕作面積11ha、組合員数45名で運営しています。平均1枚5aで160枚近くの田を水稻・小麦・黒豆・ソバ・菜の花・ワラビ等で始めましたが、毎年面積は増加しています。組合の利益を上げる事が大事ですが、それよりまずは地域に荒廃地を出さず、村の財産を守る事を目的として頑張っています。今年も終戦後70年の年となりますが昭和時代は一坪の田も大事にして守ってきました。ところが今ではやっかいな田と考える人も出てきました。農業で生計を立てていくことが困難と思われるでしょう。しかし先祖の代から守ってきた土地を荒らすわけにはいきません。国・県・市の補助金を受けて、組合員の協力の元で長く継続して、これからも農地を守って行く様努力していきますので、皆様よろしくお願ひします。

代表理事 久保田 敏彦

安曇野市農業委員会事務局からのお知らせ

農地台帳の公表について

農地台帳と農地地図情報の公表が法律で定められ、農地の面積や地番などの基本情報が公表されることとなりました。

これにより平成 27 年 4 月から「農地情報公開システム（名称：全国農地ナビ）」がスタートし、インターネット上で農地の所在等を確認することができます。

また、農業委員会窓口での閲覧も可能です。

全国農地ナビへの接続は

「全国農地ナビ」で検索 または <http://www.alis-ac.jp/> にアクセス

● インターネット（全国農地ナビ）で公表する項目

- ・ 農地の所在、地番、地目（田、畑）、面積
- ・ 農振法等の地域区分
- ・ 所有者の農地に関する意向（貸したい、売りたいなど）
- ・ 賃借権等の権利種類とその存続期間
- ・ 農地中間管理機構の権利取得や転賃の状況
- ・ 遊休農地の判断と措置の実施状況
（インターネット上では住所や氏名は公表されません）

● 農業委員会窓口で公表する項目

インターネットで公表する項目のほかに

- ・ 農地の所有者、耕作者、賃借人の氏名・名称
（窓口でも住所は公表されません）



農業委員会では、今後も農地台帳の記載内容について最新の情報に更新していきますので、農地台帳の整備に伴う調査等にご協力をお願いいたします。



明日の農業を支えている農家のみなさん

農業者年金に 加入しませんか

担い手
積立年金



- * 終身年金で80歳までの保証つき
- * 担い手を対象に保険料の国庫補助
- * 政策支援加入は保険料の国庫補助あり
- * 保険料は全額、社会保険料控除
- * 保険料月額は2万円から自由に選択

おふくろの味



材料

- 米粉……………100g
- 卵……………2個
- 牛乳……………200cc
- サラダ油…大さじ1
- 塩……………ひとつまみ

作り方

- ①ボールに粉、卵、塩を入れてよく混ぜ、牛乳、サラダ油を入れてときほぐす。ぬれ布巾をかけて30分位ねかせる
- ②フライパンを弱火にかけ、薄く油をひき、たねを玉じゃくしで流し入れ、手ばやくフライパンを動かして広げる。約1分位で薄く色づいたら返してもう片面もさつと焼く。

包んで食べる具のいろいろ

リンゴの甘煮・果物のヨーグルト和え・カスタードクリーム・チーズと野菜等、甘いものに限らず、肉や野菜、果物を取り合わせて、自分で巻いたり、包んだりして召し上がってください。

横川 委員

米粉クレープ



旬の一句

借り手待つ
中山間農地
草茂る

矢野口委員

続くものなければ
未だ若嫁と
呼ばれ張り切る
結の種蒔き

一志 みゆき

手なづけた
ノラネコ消えて
キツネみる

丸山委員

編集後記

安曇野市農業委員を引き受けまして三年経ちましたが、荒廃農地の多さには非常に驚きました。三郷地域も広い面積を抱えている状況です。地域委員会でも事務局参加での荒廃農地再生に向けて作業に取り組んでいます。一部ですが、先日ソバの作付けが行われ、芽が出て来ましたが、やがて花が咲き収穫の時期を迎える事と想われます。明科地域の天王原地区でも、この春醸造ブドウの苗が植え付けられました。耕作放棄地再生利用交付金等の活用をし、再生作業に各地域委員会としても積極的に支援をして行きたいものです。

今まで編集委員として務めて来ましたが、任期が来ます。これまで原稿を寄せて頂いた皆さん、大変有難うございました。これからも委員会だよりに一層ご協力お願いします。

三澤編集長